取扱説明書

**このたびはRSワタナベのホイールをお買いあげいただきありがとうございました。
この取扱説明書には、お買いあげいただいたホイールの正しい取り扱いかた、点検の方法などについて説明してあります。より快適に、より安全にご使用いただくために、
この説明書をぜひお読みください。**

【取り付け前に】

1. ホイールの仕様　確認

ホイールはサイズ・穴数・PCD・オフセット取り付け面形状の組合せで、車両への装着可否が決まります。車両に適合しないホイールは絶対に使用しないで下さい。販売店にご相談の上、必ず装着車両に適合したホイールを御使用下さい。

2. ナットの仮り止め　確認

●ホイールをタイヤに組む前に、ホイールと車（サスペンション等）との干渉がないか、又ナットが5回転以上（注：最近の車はスタットボルトが短くなっております）締まるか確かめて下さい。旧車はスタットボルトが長く、ナットが底突きしないか確かめて下さい。

●当社のホイールの取り付けナット座は、テーパー座を使用しております。車側のネジ径、ピッチを確認の上、ナット座の形状に合ったもの（もしくは当社専用ナットボルト）を必ず御使用下さい。形状の異なるナットボルトは充分な締め付けトルクが得られないため走行中にボルトナットが緩み、ホイールが外れ事故につながるなど非常に危険です。絶対に使用しないで下さい。また、テーパー面にグリスやオイル、砂等が付著している場合も充分なトルクが得られないため、ナットの緩みの原因となりますのでご注意下さい。

【タイヤの組み付け】

1. 取り扱い　注意

●タイヤを取り付ける時には、フランジ部を傷つけない為にゴムマットの上にて取り扱って下さい。

●タイヤレバーを直接ホイールに当てますと、フランジ部を傷つけますので、古チューブ、ゴム板等をホイールとタイヤレバーの間にはさんで取り扱って下さい。

2. エアーバルブの取り付け　注意

エアーバルブは必ず付属の専用バルブ（又は指定バルブ）を使用して下さい。バルブがホイールのバルブ穴に適合しないと、空気漏れの危険性が有ります。なお、バルブは、グロメット（エアーシール用のパッキン）の老化等により空気漏れの原因となることがありますので、必ず新品のバルブ（使用1年を交換の目安として下さい。）をご使用下さい。

3. 作業エアー圧　注意

タイヤを組み上げる際のエアー圧は5Kg／cm2以下で行って下さい。尚、5Kg／cm2まで上げてもビードが上がらない場合は、当社までご連絡下さい。

4. 空気漏れのチェック

タイヤ組み後は、空気漏れがないか必す確認して下さい。タイヤとリムとの勘合部や、バルブ周辺部を特に注意してご確認下さい。

空気漏れが発生した状態で走行を続けますとホイールを破損したり、直進性が悪くなるなど事故につながる危険性があります。

5. バランス調整　確認

タイヤ組み後は、必す全輪ともホイールバランスを調整して下さい。バランスが狂っていると異常振動やタイヤの偏磨耗の原因になります。

【ホイールの取り付け】

1. 取り付けナット・ボルトの締め方　注意

取り付けナットボルトは推奨トルク（M12で9～12Kg・a又は88N・a～118N・a　M10で5～10Kgf・a又は49N・a～69N・a）で締めて下さい。締め過ぎは、ボルト穴の変形、ナットボルトの破損など生じる事があります。締め不足は、取り付けナットボルト緩みの原因となります。インパクトレンチ使用の場合は低トルクで仮り止めし、その後推奨トルクで締め付けて下さい。

2. 車両別取り付け上の注意　注意

車種によってはブレーキドラムに調整用ビス等が突出している場合があり、ホイールのセットプレートに当ることがありますので、その時はビス等を取り外しホイールを装著して下さい。

【ホイール取り付け後のご注意】

1. 装着後の確認　警告

車両への装着後は、タイヤと車両・サスペンション部品等との接触が無いか（前輪はステアリングを左右にいっぱいきって）ご確認下さい。
ホイール車両からはみ出す事は、法律で禁止されていますので絶対に避けて下さい。今一度、確認して下さい。

2. 空気圧の点検　注意

走行前にはタイヤの空気圧点検を必ず実施し、指定空気圧に設定して下さい。空気圧不足は小さな衝撃でもホイールを傷める原因と成ります
。又、この時にエアーバルブより空気漏れがないか確認して下さい。

《適正な空気圧》
空気圧が高過ぎると路面の変化を拾いやすくなり、ボディーに振動が伝わり乗り心地が悪くなり、ブレーキのききも悪くなります。空
気圧が低すぎると路面の断壁により、ハンドルが取られる事が多くなり、また、燃費が低下します。気温が変わる春夏秋冬の年4回は、定期
的に空気圧の点検及び調整を行って下さい。

3. 増し締めについて　確認

装着初期やローテーション後は、取り付けナット・ボルトが緩みやすいので、約50～100Km走行後、推奨トルクで増し締めして下さい。
定期的に緩みが無いか点検し、その都度推奨トルクで増し締めして下さい。
（推奨トルクは、ホイールの取り付け1を参考にして下さい。）

4. 走行上の注意　警告

急発進、急制動、急旋回などの無理な走行、乱暴な運転は、ホイール・タイヤを傷めるだけでなく、重大な事故の
原因に成りますので絶対に行わないで下さい。

【異常発生時の処置】

1. 増し締めについて　注意

走行中に異常振動や異常音などを感じたら、直ちに安全な停車、点検をして下さい。

2. 障害物の注意　注意

歩道、縁石、凸凹などの乗り上げは、ホイールが変形したり亀裂が生じやすいので注意して下さい。

3. 修理・加工について　　警告

●ホイールは重要保安部品です。運輸省の定める技術基準に基づき製造しておりまさす。
●変形したり亀裂を生じたホイールをお客様自身等による修理、加工は絶対に行わないで下さい。
製造後の溶接、曲げ加工等の修理、加工を施すと溶接の熱の影響を受けたり、変形部分を曲げることにより、ホイール全体に黙視では判別出来
ない歪が生じる等、ホイールの強度低下を招き、事故に結びつく危険性があります。
●変形・亀裂等が生じた場合に、直ちに使用を中止し、販売店もしくは当社にご相談下さい。

4. 組立式ホイールについて　　警告

●組立式（2･3ピース）ホイールのリムとディスク結合ボルトは、製造時に規定トルクで締め付けています。増し締めや、緩めたりなどはボルトの
劣化、結合の緩み等につながりますので絶対に行わないで下さい。
●結合ボルトの緩み等が生じた場合は、直ちに使用を中止し、販売店もしくは当社にご相談下さい。

【日常の点検・お手入れ・保管】

1. お手入れについて　　確認

アルミ合金は、耐防食性に優れていますが、泥等が付着した状態で長時間放置していますと光沢にムラが出ることがあり ますので洗浄等で常
にきれいな状態でご使用下さい。

2. 腐食について　　　　確認

●当社のゴールドは酸化皮膜のメッキです。製品の表地に防食、表面硬化等の化学的効果を促進させる処理の結果、ゴールドの色がついたものです
。このゴールドを長持ちさせるには、ホイールを洗う時に、洗車機、タワシ、工業用石鹸等硬いもので洗わないようにお願いします。
●ホイール表面には防食処理をしていますが、降雪地域の道路凍結防止剤、海岸地域の塩水や潮風は、軽合金に対して非常に有害ですので走行後、
よく水洗いをして下さい。

3. 洗浄剤について　　　確認

一般に市販されておりますホイールクリーナー及びボディークリ－ナを使用の際は説明書をよくお読みになり、ご使用方法をご確認の上ご使用
下さい。

4. 保管について　　　　確認

ホイールを車両から取り外し、保管される時は綺麗に洗浄・乾燥させ、直射日光や高温多湿の場所は避けて下さい。

JWL　　　　　（JWL 基準適合マーク JAPAN LIGHT ALLOY WHEELの略）
「乗用車用軽合金製ディスクホイールの技術基準」
この基準は乗用車（乗用定員11人以上の自動車、二輪自動車及び側車付二輪自動車を除く）用軽合金ホイールに適用されている安全基準です。
この技術基準に定められた試験を製造者自らの責任において行い、適合したものについてはJWLのマークが表示されます。
JWL-T　　　　（JWL-T 基準適合マーク JAPAN LIGHT ALLOY WHEEL TRUCK& BUSの略）
「トラック及びバス用軽合金製ディスクホイールの技術基準」
この基準はトラック・バス用軽合金ホイールに適用されている基準です。
この技術基準に定められた試験を製造者自らの責任において行い、適合したものについてはJWL-Tのマークが表示されます。
VIA　　　　　　（商品検査合格マーク VEHICLE INSPECTION ASSOCIATIONの略）
JWL・JWL-T基準に定める適合商品であるか否かを第三者的機関の「自動車用軽合金製ホイール試験協議会」が確認するもので、JWL・JWL-T基準によ
る厳格な品質・強度再確認試験に合格したものについてはVIAマークの表示がされてます。